

令和 3年 1月

畑山祐輝 学位論文審査要旨

主 査 千 酌 浩 樹
副主査 山 崎 章
同 本 倉 徹

主論文

Frequent co-reactivation of Epstein-Barr virus in patients with cytomegalovirus viremia under immunosuppressive therapy and/or chemotherapy

(免疫抑制療法あるいは化学療法下のサイトメガロウイルス血症患者における Epstein-Barrウイルスの頻繁な共再活性化)

(著者：畑山祐輝、橋本祐樹、本倉徹)

令和 2年 Journal of International Medical Research 48巻 1頁～11頁

参考論文

1. Analysis of acute transfusion reactions and their occurrence times

(急性輸血副作用と発症時間の解析)

(著者：畑山祐輝、松本智子、浜田映子、小島奈央、原文子、日野理彦、本倉徹)

平成30年 Yonago Acta Medica 61巻 87頁～90頁

審査結果の要旨

本研究は免疫抑制療法あるいは化学療法下の患者においてサイトメガロウイルス（CMV）とEpstein-Barrウイルス（EBV）の共再活性化の頻度や臨床的意義について調査したものである。その結果、これらのウイルスの共再活性化は高頻度に認められ、特に前期高齢者に該当する年齢群ではより高頻度に共再活性化を認めた。また、その年齢群ではステロイドパルス療法が高頻度に行われていたことから、CMVとEBVの共再活性化は年齢だけでなく、医原性免疫抑制の強度も反映している可能性がある。本論文の内容は、潜在的なウイルスの付加的なモニタリングが、患者の免疫状態に関する情報としての有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。